

～幼児教育の質向上に向けて大切なこと～

今、幼児教育の質向上が課題となっています。

幼児教育の質向上には、教員が力をつけることが必要です。

遊びや生活の中で幼児を理解すること、幼児の変容を環境の構成や指導との関係から検討すること、実践をよりよいものに改善していくこと、そのような力が求められています。その力は、教員同士が学び合う園全体の雰囲気や風土の中で培われます。まずは、指導を振り返る時間を確保してみてください。そして、書いたものを持ち寄り、語り合う場をつくってみてください。多様な考えに出会うことで、教育観が磨かれます。自分の指導を見直し改善への手掛かりを得ることができます。

少しの時間から始めてみませんか。

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会 会長 神永 直美

2020年度文部科学省委託研究
幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究

明日の保育につなげる —指導の改善に生かす「評価シート」—

本リーフレットの活用に当たっては、合わせて「活用ガイド」及び「報告書」をご参照ください。
なお、本リーフレット及び「活用ガイド」「報告書」は、文部科学省HPよりダウンロードできます。

国立大学法人 東京学芸大学

国立大学法人 東京学芸大学附属幼稚園
協力団体：全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

このリーフレットは、文部科学省の「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究（幼稚園における学校評価に関する調査研究）」の委託費による委託業務として東京学芸大学が実施した、令和2年度幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究の成果を取りまとめたものです。したがって、本リーフレット及び「活用ガイド」「報告書」の複製、転載、引用等には文部科学省の承諾が必要です。

明日の保育につなげる

—指導の改善に生かす「評価シート」—

活用ガイド

本書の活用にあたって

本書は、日々の実践をさらに楽しく、よりよいものにしていくことができるように、日常行っている振り返りに視点をあて、振り返る内容や手順を整え示してみたものです。

振り返りを深めていくための手掛かりとして「幼児の体験の捉え2020」「評価表2020」「評価シート2020」を作りました。これらを使いながら、幼児の体験や自分の指導について考えてみることで、評価につながります。実際にやってみることで、評価に取り組むよさも感じられると思います。

本来、評価は、各園で作成したものに基いて行うものですが、まずは本書を使って評価に取り組み、一緒に幼児教育の質向上を目指していきましょう。

なお、「幼児の体験の捉え2020」「評価表2020」「評価シート2020」の作成にあたっては、全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会のこれまでの研究成果を基にしています。

国立大学法人 東京学芸大学附属幼稚園

協力：全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

いつもの振り返りが評価につながります！

～記録を生かして手順を進めると自分の指導を評価できます～

STEP
1

エピソード記録
を書く

記録を書きましょう！

楽しそうだった遊びのこと、
困ってしまったこと、
心に残っていることなど、
書いてみましょう。

STEP
2

幼児の体験
を捉える

幼児のしていたことの
意味を考えましょう！

楽しさを感じていたのはどこか、
友達とどう関わっていたのか、
何に関心をもっていたかなど、
考えてみましょう。

STEP
3

教師の指導
について評価する

自分の指導の
意味を考えましょう！

どのような思いで関わったのか、
どんなふうに関わりたかったのか、
なぜ、それを用意したのかなど、
考えてみましょう。

STEP
4

気づきや改善点
について考える

明日の指導を
考えましょう！

環境の構成・教材・教師の関わり
などについて、明日につながるように、
改善点等を考えてみましょう。

3ページへ

4ページへ

5ページへ

6ページへ

Memo

限られた時間でも、できる範囲で **さあ、まずはやってみよう！**

STEP 1

エピソード記録を書く

● どんなことをするの？

- 1 一日を振り返り、印象に残っている場面の記録を書いてみましょう。
- 2 記録の中で、「大事だ」と感じた個所に下線を引いてみましょう。

ワンポイントアドバイス

- 長い事例でなくてもよいのです。一日を終えて印象に残った姿をまず、書いてみましょう。
- なぜ「大事だ」と感じたのでしょうか。それを考えてみるのが大切なのです。



今日のAちゃん、楽しそうだったな。

Bちゃんのこと、なんだか気になるな...

エピソード記録を書きましょう

実際にやってみよう！

10月3日(3歳児)

A児とB児がウレタン積み木を使って、おうちを作る。
積み木が四角く囲まれると、うさぎのお面を被っていたA児は、おうちの中にちょこんと入って座る。C児は、おうちができたことを見て、「お弁当作るね!」と言ってままごとコーナーで、弁当箱にごちそうを詰めてお弁当を作る。
教師は「ピンポン」と言うとおうちの中に入ることにした。教師が入ることで、D児も一緒に入ってきた。また、E児も「ピンポン」と言うと、A児やB児が迎え入れた。

下線部について考えまじょう

STEP 2

幼児の体験を捉える

● どんなことをするの？

- 3 記録の下線部について右の表を手掛かりに考えましょう。

ワンポイントアドバイス

- あてはまる項目がいくつも見つかったらすべてに矢印をつけましょう。それは、幼児の姿を多様な視点で見ることにつながります。
- 評価表の年齢は目安ですので、実年齢とは関係なく選んでください。

Aちゃんにとってどんな体験だったのかな?

実際にやってみよう！

A児とB児がウレタン積み木を使って、おうちを作る。

A児は、おうちの中にちょこんと入って座る。C児は、おうちができたことを見て、「お弁当作るね!」と言ってままごとコーナーで、弁当箱にごちそうを詰めてお弁当を作る。

教師が入ることで、D児も一緒に入ってきた。また、E児も「ピンポン」と言うと、A児やB児が迎え入れた。

「幼児の体験の捉え2020」(例示)

第1期 (3歳児入園～4歳児前半)	第2期 (3歳児後半～5歳児前半)	第3期 (5歳児後半)
【1】同じ場で見たり触れたり行為を真似したりする	【1】遊びの場を共有し、友達とかわつて遊ぶ楽しさを感じる	【8】目的を共有し、友達と相談しながら遊びを進める
【2】共有し、つながり合う気分を味わう	【1】イメージや考えを伝え合い、表現する楽しさを感じる	【8】新しいアイデアや遊びのルールを生み出す
【3】イメージの世界に入り、感情を共有する	【1】経験を振り返り、友達と一緒に振り返りをつくり出す	【8】グループや学級の中で、役割を分担して取り組む
【4】友達の名前、好意をもって受け入れようとする	【1】友達と刺激し合いながら、自分の世界を広げる	【1】友達のおさや特殊な遊びながら、目的を達成し達成感を味わう
【5】友達のことを感じながら、個々の遊びを楽しむ	【1】体験を深め、学級の友達と遊び楽しむことを共有する	【8】様々な人とのかわりの中で経験を蓄積しながら、自分の考えや考えを広げる
【6】安心して自分の気持ちや思いを表現し、言葉や動きで伝えようとする	【1】自分がしたことを振り返るとし、相手の話を聴こうとする	【8】思ったことや考えたことを相手に分かるように話すとともに、発信してくれる人の話を聴く
【7】集団生活の中で、言葉を交わす楽しさや必要な言葉があることを知る	【1】遊びを深めながら、友達と思いや考えを出し合う	【8】考えを伝え合ったり、相談したりしながら遊びや生活を深める
【8】ものを持ったり、見立てたりして遊ぶ楽しさや面白さを感じる	【1】ものの色や形、性質などに興味をもち、遊びを楽しむために必要なものを作ったり、探したり、試したりする	【8】数量の文字に対して興味や関心をもち、進んで試みるようになる
【9】全書で素材の感触を味わって遊ぶ	【1】身近な自然やもののなかのかわりや興味や関心を感じ、様々なことに興味を持ち、問いかけ、不思議さを感じたりする	【8】身近な事象とかわりの中で、変化、仕組み、法則性などについて気付くようになる
【10】身近な自然や自分なりの興味や関心をもつて遊ぶ	【1】興味や関心をもつことに没頭して遊ぶ	【8】地域や社会生活の中で興味や関心をもつたことを遊びや学びの場へより本物らしく再現できるように意識していく
【11】気に入った遊びをゆめくまで繰り返す	【1】好きな遊びに繰り返し取り組み、自分なりの表現を楽しむ	【8】友達と共通の目的や得意なことを、思いを実現するために繰り返して工夫したりする
【12】思い通りの身体を動かす心地よさを感じる		【8】一人ではできないこと、仲間には達成できないことも挑戦し、充実感を味わったり、ルールのある遊びを楽しむ

上記「幼児の体験の捉え2020」は、平成26年度文部科学省委託事業「幼児教育の改善・充実調査研究」体験の多様性と関連性、協同を育む指導の在り方に関する調査研究「多様性と関連性のある体験を通して幼児期の学びを深める実践研究」から引用したものである。
なお、評価カードの作成や話し合い等の際に使いやすく、便宜上、【1】から【8】の番号を付けた。

表から考えてみましょう

【8】ものを持ったり、見立てたりして遊ぶ楽しさや面白さを感じる。

【5】友達のしていることを感じながら、個々の遊びを楽しむ。

【1】同じ場で見たり触れたり行為を真似したりする。

STEP 3

教師の援助について評価する

● どんなことをするの？

- 4 右の表を手掛かりに自分の指導を振り返りましょう。
- 5 指導について○●を使って具体的に書いてみましょう。

- こんな指導ができた
- こんな指導がしなかった

ワンポイントアドバイス

- 「○」が多いことが良いのではありません。
- 「●」は、指導の改善につながる大切な気づきです。

もう少し違う関わり方ができたかもしれないな？



「評価表 2020」(例示)

評価項目	評価指標
	育ちの方向 (修了)
[F] 見通し・振り返り	[Fb] 見通しをもち自分から行動できるように、生活の仕方工夫する。 [Fb] 思いの強弱や進捗をもちり自分の生活について考えたりできるように、活動の振り返りなどに思いの強弱を聞き合う場面をつくる。
[E] 友達関係	[Ea] 自分の思いが通じる喜びが味わえるように、幼児の思いに共感したりやりとりの仕方のモデルとなったりする。 [Eb] みんなの中の自分が感じられるように、体験が共有できる状況をつくる。 [Ec] みんなの中でイメージが広がりやすいように、それぞれのイメージを聞き取りし、つなげたりする。 [Ed] 友達と遊ぶことが楽しく感じられるように、幼児同士をつなぐ材料や道具、場所などを工夫する。 [Ee] 思いの強弱や進捗をもちり自分の思いを伝えたりすることで新たな発見や気づきを得たりできるように、いざこざや相違の場面を大切に扱う。 [Ef] 互いの思いや考えに長所や自分の気持ちを認めていけるように、考えたり相談したりする状況をつくる。 [Eg] 共通の目的や課題に向かって活動する中で進捗・調整を繰り返すように、調整する態度を高める場面を構築したり友達と協力する状況をつくったりする。 [Eh] 仲間とともに遊びの面白さを味わえるように、それぞれの活動を互いに関連付ける。
[D] 経験の広がり	[Da] 心を奪われ、思わず体を動かす、遊んでみたいようになるように、環境を構成したりともに楽しんだりする。 [Db] 興味・関心やイメージが広がるように、発見や感動に共感したり、友達の動きや様子から刺激を受けられるようにしたりする。 [Dc] 知識や社会の事象を遊びに取り入れられるように、本物らしさを演出できるような材料や道具を準備したり、じっくりと味わえる場や時間を確保したりする。
[C] ものとの関わり	[Ca] 遊びの中で出会う自然や素材を使って繰り返し試すことができるように、十分な時間を確保する。 [Cb] イメージを広げられるよう、様々な素材・材料・遊具を使えるようにし、その子なりの表現を受け止める。 [Cc] 探究心をもち行動が促されるように、多様な素材・材料・遊具を準備して準備したり、これまでの経験を基に試してみようという意気込みを伝えて活動できるように工夫を凝らす。 [Cd] 身近な環境との関わりを深められるように、それぞれの発見や工夫を伝え合ったり教え合ったり、一緒に調べたりする状況をつくる。
[B] 自己発現	[Ba] 自分のしたいことをじっくり楽しむように、時間と空間を確保する。 [Bb] 自分の興味・関心をもったことに繰り返し取り組めるように、遊びを支えたり言葉かけをしたりする。 [Bc] 一人一人のよさや得意なことを伸ばせるように、幼児同士をつなぐ、互いに認め合い支え合う関係を育む雰囲気をつくる。
[A] 安心・安定	[Aa] 面であらゆる活動ができるように、幼児の心の動きに寄り寄り、信頼関係を築く。 [Ab] 教師や友達と同じ場や空間にいる心地よさを感じられるように、環境を構成する。

表から考えてみましょう

実際にやってみよう！

【Cb】イメージを広げられるよう、様々な素材・材料・遊具を使えるようにし、その子なりの表現を受け止める。

●その子なりの表現を受け止めるつもりで見守ったが、イメージを広げられるように関わりたかった。

【Ea】自分の思いが通じる喜びが味わえるように、幼児の思いに共感したりやりとりの仕方のモデルとなったりする。

○やりとりする楽しさが続いてほしいと思ったので、教師も「ピンポン」と言っておうちの中に入り、関わりをつなげることができた。

STEP 4

気づきや改善点について考える

● どんなことをするの？

- 6 「評価表 2020」を手掛かりに明日の保育における指導について考えましょう。
- 7 気付いたことを生かして具体的な計画を考えましょう。

ワンポイントアドバイス

- 「○」を生かして、指導が改善できるような具体的な計画を立ててみましょう。
- 「～かも」といろいろな場面を想定してみると関わり方の引き出しが増えますよ。

明日は多めに材料を準備しよう！

もっとイメージが広がるような関わりをしてみよう！



実際にやってみよう！

【Cb】イメージを広げられるよう、様々な素材・材料・遊具を使えるようにし、その子なりの表現を受け止める。

●製作コーナーに、お面を作れるような紙やお面バンドをたくさん用意しておこう。

【Eb】友達と遊ぶことが楽しく感じられるように、幼児同士をつなぐ材料や道具、場所などを工夫する。

○教師が共通の動作を提案したり、イメージを言葉にしたりすると、さらに関わって遊ぶ楽しさが感じられるだろう。

STEP3での気づきをもとに、明日に向けて、どう環境を構成したらいいのか、幼児にどう関わったらいいのか、などを具体的に考えましょう。

例えば...

- 環境の構成
- 教師の関わり
- 教材など



明日の保育へ

STEP1 から4までのことを「評価シート2020」にまとめてみると…

いつもの振り返りをシートに書いてみると、
評価のプロセスがはっきり見えてきます！

3ページから6ページ「実際にやってみよう」の部分が赤い囲みです。

[3]歳児 [10]月[3]日
場面[おうちごっこ]

<エピソード記録を書く>	<幼児の体験を捉える>	<教師の指導について評価する>	<気づきや改善点を考える>
<p>※幼児の姿・教師の指導・環境等を書く ※「これは大事な姿かもしれない」と思った姿に下線を引き、<幼児の体験を捉える>の欄に向けて矢印を付ける</p> <p>A 児と B 児がウレタン積み木を使って、おうちを作る。積み木が四角く囲まされると、うさぎのお面を被っていた A 児は、おうちの中にちょこんと入って座る。C 児は、おうちができたことを見て、「お弁当作るね!」と言ってままごとコーナーで、弁当箱にごちそうを詰めてお弁当を作る。 教師は「ピンポン」と言うとおうちの中に入ることにした。教師が入ることで、D 児も一緒に入ってきた。また、E 児も「ピンポン」と言うので、A 児や B 児を迎え入れた。</p>	<p>※エピソード記録の下線について『幼児の体験の捉え 2020』を見て、「下線部分の姿は、こういう体験をしていたと思う」箇所を選んで記入する</p> <p>【⑧】ものを持ちたり、見立てたりして遊ぶ楽しさや面白さを感じる</p> <p>【⑤】友達と一緒にいるのを感じながら、個々の遊びを楽しむ</p> <p>【①】同じ場で見たり触れたり行為を真似したりする</p>	<p>※『評価表 2020』を見て、「自分はこうだった」に該当する箇所を選んで記入する ※エピソードを記録する際、○こんな指導ができた／●こんな指導ができなかった・しなかった を書く</p> <p>【Cb】イメージを広げられるように、様々な素材・材料・道具を使うようにし、その子なりの表現を受け止める。</p> <p>●その幼児なりの表現を受け止めるつもりで見守ったが、イメージを広げることができなかった。</p> <p>【Ea】自分の思いが通じる喜びが味わえるように、幼児の思いに共感したりやりやりの仕方のモデルとなったりする。</p> <p>○やりとりする楽しさが続いてほしいと思ったので、教師も「ピンポン」と言うとおうちの中に入るという関わりはできた。</p>	<p>※『評価表 2020』を見ながら、「これもあてはまるかも!」「こっちだったかもしれない…」と考え、『評価表 2020』中の該当する箇所を選んで記入する ※明日や次の機会に具体的にすることを考えて書く</p> <p>【Cb】イメージを広げられるように、様々な素材・材料・道具を使うようにし、その子なりの表現を受け止める。</p> <p>・遊びに必要なものを用意したり、作ったりしているの、製作コーナーに、お面を作れるような紙やお面バンドをたくさん用意しておこう。</p> <p>【Eb】友達と遊ぶことが楽しいと感じられるように、幼児同士をつなぐ材料や道具、場所などを工夫する。</p> <p>・共通のものとなる動作を提案したり、幼児のイメージを言葉にしたりすると、さらに幼児同士で関わって遊ぶことの楽しさが感じられるだろう。</p>
<p>「ピンポン」と C 児のお弁当が配達されると、次々に F 児や G 児がカバンの中にレジャーシートやお弁当を入れて持ってくる。 教師は、おうちの中に必要以上のものが溢れて散らかると、中でお弁当を食べるつもりになることが楽しめないと思い、レジャーシートはままごとコーナーに持ち帰ってもらうように言った。 また、配達時に届けられたカバンを持って、D 児は教師に「お買い物に行ってくる!」と言って、ままごとコーナーに出掛けたり、たくさん届いたお弁当をおうちの中の幼児たちと一緒に食べたりして、それぞれがやりたいことを楽しんでいた。</p>	<p>【②】共有し、つながり合う気分を味わう</p> <p>【⑤】友達と一緒にいるのを感じながら、個々の遊びを楽しむ</p> <p>【⑥】安心して自分の気持ちや思いを表し、言葉や動きで伝えようとする</p> <p>【⑧】ものを持ちたり、見立てたりして遊ぶ楽しさやおもしろさを感じる</p>	<p>【Ba】自分のしたいことがじっくり楽しめるように、時間と空間を保障する。</p> <p>○おうちの中に必要以上のものが溢れて散らかると、中でお弁当を食べるつもりになることが楽しめないと思い、レジャーシートはままごとコーナーに持ち帰ってもらうように言った。</p>	<p>【Ed】遊びの中でイメージを共有していけるように、それぞれのイメージを引き出したり、つないだりする。</p> <p>・友達の持っているものや動きを見て自分なりに思いついたことをしている姿もあることから、せっかくなので、ピクニックというイメージの中で遊べるようにしてもよかったのかもしれない。</p>

Memo 次のページをコピーして使ってみましょう! A3に拡大すると使いやすいです。

「評価シート2020」(例示)

やってみよう!

[]歳児 []月[]日
場面[]

(※「評価シート2020」は下記の研究をもとに例示として作成したものである)

<エピソード記録を書く>	<幼児の体験を捉える>	<教師の指導について評価する>	<気づきや改善点を考える>
<p>※幼児の姿・教師の指導・環境等を書く ※「これは大事な姿かもしれない」と思った姿に下線を引き、<幼児の体験を捉える>の欄に向けて矢印を付ける</p>	<p>※エピソード記録の下線について『幼児の体験の捉え 2020』を見て、「下線部分の姿は、こういう体験をしていたと思う」箇所を選んで記入する</p>	<p>※『評価表 2020』を見て、「自分はこうだった」に該当する箇所を選んで記入する ※エピソードを記録する際、○こんな指導ができた／●こんな指導ができなかった・しなかった を書く</p>	<p>※『評価表 2020』を見ながら、「これもあてはまるかも!」「こっちだったかもしれない…」と考え、『評価表 2020』中の該当する箇所を選んで記入する ※明日や次の機会に具体的にすることを考えて書く</p>

「評価表 2020」「評価シート 2020」は、平成 21 年度文部科学省委託事業「幼児教育の改善・充実調査研究」幼稚園における教育課程上の諸課題に対応した実践的調査研究「協同して遊ぶことに関する指導の在り方」、平成 26 年度文部科学省委託事業「幼児教育の改善・充実調査研究」体験の多様性と関連性、協同性を育む指導の在り方に関する調査研究「多様性と関連性のある体験を通して幼児期の学びを深める実践研究」、平成 27 年度文部科学省委託事業「幼児教育の質の向上に係る推進体制等の構築モデル研究」『幼児期の非認知的な能力の発達をとらえる研究—感性・表現の視点から—』、『幼児の科学的思考を支える非認知的能力の発達の様相—好奇心・やり抜く力・協同的感性の視点から—』の4つの先行研究を基に作成したものである。

Q 「幼児の体験の捉え2020」ってなあに？

- A
- 幼児は環境に自ら関わる中で体験を通して学びます。
 - どんな体験をしているのか、幼児の姿から捉えることが必要です。
 - そのための手掛かりになるものです。

エピソード記録の下線部分について、幼児がどんな体験をしたか右のページの表から選んでみましょう。

例

4ページ STEP2

複数あるならいくつ選んでも大丈夫！

積み木で構成すること自体を楽しんでいるのか、友達との関わりを楽しんでいるのか、どっちかな？
今は【⑧】の方がびったりしているかもしれない。

幼児の体験の捉え方によって、必要な指導も違って来るわね。



A児とB児がウレタン積み木を使って、おうちを作る。

【⑧】ものを持ちたり、見立てたりして遊ぶ楽しさや面白さを感じる。

【⑬】場やものを共有し、友達と関わって遊ぶ楽しさを知る。

Memo 右のページを参考に各園が大切にしている「幼児の体験」を表にしてみるのもおすすめです。

「幼児の体験の捉え2020」(例示)

(※「幼児の体験の捉え2020」は下記の研究をもとに例示として作成したものである)

第Ⅰ期 (3歳児入園～4歳児前半)	第Ⅱ期 (3歳児後半～5歳児前半)	第Ⅲ期 (5歳児後半)
【①】同じ場で見たり触れたり行為を真似したりする	【⑬】場やものを共有し、友達とかかわって遊ぶ楽しさを知る	【⑲】目的を共有し、友達と相談しながら遊びを進める
【②】共有し、つながり合う気分を味わう	【⑭】イメージや考えを伝え合い、表現する楽しさを味わう	【⑳】新しいアイデアや遊びのルールを生み出す
【③】イメージの世界に浸り、感情を共有する	【⑮】葛藤を乗り越え、友達と一緒に遊びをつくりだす	【㉑】グループや学級の中で、役割を意識して取り組む
【④】友達の存在を、好意をもって受け入れようとする	【⑯】友達と刺激し合いながら、自分の世界を広げる	【㉒】友達よさや持ち味を感じながら、目的を実現し達成感を味わう
【⑤】友達のしていることを感じながら、個々の遊びを楽しむ	【⑰】体験を深め、学級の友達と遊びの楽しさを共有する	【㉓】様々な人とかかわりの中で刺激を受けながら、自分の見方や考えを広げる
【⑥】安心して自分の気持ちや思いを表し、言葉や動きで伝えようとする	【⑱】自分がしたことや思ったことを話そうとし、相手の話を聞こうとする	【㉔】思ったことや考えたことを相手に分かるように話すとともに、気を付けて人の話を聞く
【⑦】集団生活の中で、言葉を交わす楽しさや必要な言葉があることを知る	【⑲】遊びを進めながら、友達と思いや考えを出し合う	【㉕】考えを伝え合ったり、相談したりしながら遊びや生活を進める
【⑧】ものを持ちたり、見立てたりして遊ぶ楽しさやおもしろさを感じる	【㉑】ものの色や形、性質などに関心をもち、遊びを楽しむために必要なものを作ったり、探したり、試したりする	【㉖】数量や文字に対して興味や関心をもち、進んで遊びに使おうとする
【⑨】全身で素材の感触を味わって遊ぶ	【㉒】身近な自然やものにかかわり興味や関心を広げ、様々なことに気付いたり、驚いたり、不思議さを感じたりする	【㉗】身近な事象とかかわる中で、変化、仕組み、法則性などについて気付くようになる
【⑩】身近な自然に自分なりの興味や関心をもってかかわる	【㉓】興味や関心をもったことに没頭して遊びこむ	【㉘】地域や社会生活の中で興味や関心をもったことを遊びに取り入れ、より本物らしく再現できるように追究していく
【⑪】気に入った遊びを心ゆくまで繰り返し楽しむ	【㉔】好きな遊びに繰り返し取り組み、自分なりの表現を楽しむ	【㉙】友達と共通の目的や見通しをもち、思いを実現するために調べたり工夫したりする
【⑫】思い切り身体を動かす心地よさを感じる		【㉚】一人ではできないこと、簡単には達成できないことにも挑戦し、充実感を味わったり、ルールのある遊びを楽しんだりする
		【㉛】友達と探究する中で、多様な感情体験をしながら、やり遂げた喜びを感じる

上記「幼児の体験の捉え2020」は、平成26年度文部科学省委託事業「幼児教育の改善・充実調査研究」体験の多様性と関連性、協同を育む指導の在り方に関する調査研究『多様性と関連性のある体験を通して幼児期の学びを深める実践研究』から引用したものである。
なお、評価シートの作成や話し合い等の際に使いやすいように、便宜上、【①】から【⑳】の番号を付けた。

Q 「評価表2020」ってなあに？

- A
- 教師の指導には意図があるはずです。
 - どうしてそのような指導をしたのか、振り返ることが大切です。
 - 「評価表2020」は、どうしてそのような指導をしたのか、振り返る手掛かりとなるものです。

まずは、どのような幼児の育ちを大切にしたいか、評価項目から考えましょう。

例 4ページ STEP2

評価表には6つの評価項目があります。

A児とB児がウレタン積み木を使って、おうちを作る。

積み木を積むことを楽しんでいる姿を大切にしたいから評価項目の【C】ものとの関わりから選んでみよう。



どんな指導をしたか、評価指標から近いものを選びましょう。

自分のした指導に近いのは…

例 5ページ STEP3

評価指標を考えることで自分の指導が整理されます。

【Cb】イメージを広げられるように、様々な素材・材料・遊具を使えるようにし、その子なりの表現を受け止める。

他に大切なことはないかな

違った方法はなかったかな

新たに気付いたことは…

- 様々な素材や材料を準備してさらにイメージを広げることでもできたのかもしれない。

違った関わりや環境構成が考えられそう！



明日はどんな指導をしようかな

例 6ページ STEP4

評価表から、違った指導の方法や新たな気付きにつながるヒントも見つかります。

- 製作コーナーに、お面を作れるような紙やお面バンドをたくさん用意しておこう。

Memo 右ページを参考に各園で評価項目・指標を作成してみるのもおすすめです。

「評価表2020」(例示)

(※評価表2020は下記の全関連の研究をもとに例示として作成したものである。)

評価項目	評価指標	
	育ちの方向 (修了) →	
【F】見通し・振り返り <small>遊びや生活に見通しをもったり、振り返ったりすることに関して</small>	育ちの方向	(修了)
【E】友達関係 <small>友達との関わりが深まるように状況をつくったり支えたりすることに関して</small>	やりとり 関わり つながり	自己調整 協同的 仲間
【D】経験の広がり <small>興味やイメージが広げられるようにきっかけをつくったり、新たな遊具や素材を準備したりすることに関して</small>	遊びの広がり 興味関心の広がり	イメージや考えの広がり
【C】ものとの関わり <small>遊びの中で様々な素材・材料・遊具を使って繰り返し試すことができるように、十分な時間を保障することに関して</small>	自然やものとの関わり	繰り返し関わる 探究する 素材や材料との関わり
【B】自己発揮 <small>その子らしさを発揮し、よさや持ち味につながるよう一人一人の思いを十分に受け止め、幼児同士をつなぐことに関して</small>	自己発揮	よさや持ち味の発揮
【A】安心・安定 <small>幼児の心の動きに寄り添い、信頼関係をつくることに関して</small>	安心・安定	

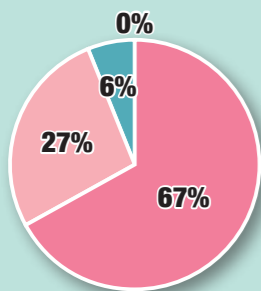
「評価表2020」「評価シート2020」は、平成21年度文部科学省委託事業「幼児教育の改善・充実調査研究」幼稚園における教育課程上の諸課題に対応した実践的調査研究「協同して遊ぶことに関する指導の在り方」、平成26年度文部科学省委託事業「幼児教育の改善・充実調査研究」体験の多様性と関連性、協同性を育む指導の在り方に関する調査研究「多様性と関連性のある体験を通して幼児期の学びを深める実践研究」、平成27年度文部科学省委託事業「幼児教育の質の向上に係る推進体制等の構築モデル研究」『幼児期の非認知的な能力の発達をとらえる研究—感性・表現の視点から—』、「幼児の科学的思考を支える非認知的な能力の発達の様相—好奇心・やり抜く力・協同的感性の視点から—」の4つの先行研究を基に作成したものである。なお、評価シートの作成や話し合いの際に使いやすいように、便宜上、【A】から【F】/【Aa】から【Fb】の番号を付けた。

「評価シート2020」を使ってみました♪

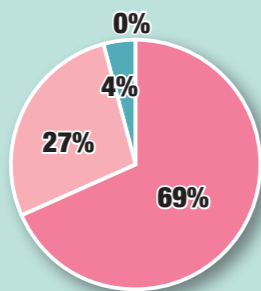
「評価シート2020」は役立ちましたか？

*アンケート結果より 回答者は幼稚園教諭

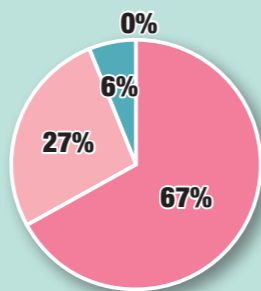
① 幼児の体験を捉えること



② 教師の指導を評価すること



③ 気づきや改善点を考えること



■ とても役立つ
■ やや役立つ
■ あまり役立たない
■ 役立たない

担任の先生の声



『体験の捉え2020』『評価表2020』が自分の指導を振り返るのに役立ちました。手掛かりがあるので近いものを選ぶ形で**時間をかけずに評価できました**。視点が設けられているので、**評価に対するハードルが下がったと感じました**。

『体験の捉え2020』に当てはめて幼児の姿を見ていくことで、**分かりやすく考える指標になりました**。捉えを自分で表現するのは難しいですが、一覧になっていることで**自分の考えも整理されました**。

『体験の捉え2020』や『評価表2020』と照らし合わせることで、幼児が何を体験しているのか、自分の指導がどのような願いから行われたものなのかを**振り返ることができました**。〈気づきや改善点を考える〉欄があることで、自分の指導を多角的に見ることになり、その改善に生かせると感じました。



園長先生などの声



指導の評価に終わらず、改善点を考える枠があるので、明日の保育にすぐ生かすことができました。同学年や全学年の先生で**カンファレンスの場を設けることで**、多様な視点から指導の改善を行えるとともに、**幼児教育の質向上につながる**と感じました。

担任の先生の指導に込められた思いを把握することができ、**その後のアドバイスがしやすいように思いました**。継続して活用することでその時期の学級全体や一人一人の育ちの状況を把握したり幼稚園全教職員で幼児の育ちの方向性や発達の課題等について意見を出し合ったりするなど、**園全体で活用できると思いました**。

体験を捉える視点、指導を評価する視点が示されていることにより、より丁寧かつ多角的に記録を省察することができました。**こういった視点を園独自に練り、評価システムを構築していきたいです**。



「評価シート2020」を使うことで

- 幼児理解が深まります
- 指導の改善につながるヒントが見えてきます
- 教師自身に気づきが生まれます
- ちょっとした時間で指導を振り返ることができます
- 評価のプロセスが見える化できます
- 柔軟で多様な指導の視点を園全体で育んでいくことにつながります

幼児と過ごすことがますます楽しくなり、
幼児の育ちを確かなものにする

指導力がアップします